



おち あい しん ご 落合慎悟県議

静岡県議会報告 2018年2月号

静岡県政に対するご意見
ご要望をお寄せください。

静岡県議会報告

五輪会 自民改革会議 静岡県議会議員

おち あい しん ご 落合慎悟



参加者募集 静岡県議会 傍聴 (落合慎悟県議質問)・富士山世界遺産センター視察

日程 3月1日(木) 09:00~17:00

参加費/1人2千円(バス・昼食代)
募集/120人 申込順 申込締切/2月20日(火)
申込方法/落合慎悟事務所
電話054-645-8100 FAX 054-645-8111

時間行程	
09:00~09:30	藤枝市内各地出発
11:15~12:15	落合慎悟県議質問傍聴
12:20~13:00	県庁で昼食・写真撮影
14:00~15:30	富士山世界遺産センター(富士宮市)
16:30~17:00	各地帰着

撮影 平井広行



6・9・12月の年4回議会が開催される。議員に割り当てられる質問は年1回で25分間が基本である。監査委員など質問しない議員がいるため、今年度2回目の質問が許可された。答弁含め、約1時間の質問時間です。



12月23日にオープンした富士山世界遺産センターは水面に映る富士型の建物も素晴らしい。逆円錐形の建物とその周囲を覆う木格子が目を引くデザイン。展示棟内部はらせん状のスロープ。

本会議 質問内容(変更になる場合もあります。)

1. 静岡県組織編成(知事直轄戦略監・副知事・部局長)
2. 企業の事業継承対策(経営者の高齢化と後継者対策)
3. 企業の在職技術者養成(技術専門校の土日夜間授業)
4. 地域医療構想と8次保健医療計画(病床再編と課題)
5. 空き家対策(空き家の調査費助成で不動産販売促進)
6. 小・中学生の学力・体力調査(秋田県・福井県と比較)
7. 志太地域道路(国一4車線化IC変更と志太中央幹線)
8. 藤枝市高田地区工業団地

活動の記録

- 11/1 小石川流域総合的治水対策豊田公民館
- 11/2 全国地震津波対策都道府県議連自民党本部
- 12/3 藤枝市防災訓練稲葉小学校



県は小石川・黒石川流域総合的治水対策の行動計画を策定している。流域地区の説明会を開催した。



全国地震津波対策都道府県議連が党本部で開催された。防災担当大臣等、多くの国会議員が支援に訪れた。



「地域防災の日」藤枝市は稲葉小学校で防災訓練を開催。看護協会による救助看護の手法等を勉強した。

11/9~10 会派地震津波議連視察

高知県庁危機管理部南海トラフ地震津波対策課 室戸市津波避難シェルター



高知県の地震津波対策について説明を受けた。防潮堤ではなく津波避難タワー等人命救助を優先



高知県が全国初、設置した津波避難タワーの構造や管理状況、室戸市に無償譲渡された経緯等確認した。四国は山を背にした地域が多く、避難タワーが設置できない場所がある。伊豆地域に参考になる。

12/4県看護連盟と自民党看護を考える議員連盟による県内病院視察(2次医療圏ごとに分かれて実施)

藤枝総合病院救急医療視察 橋原総合病院訪問看護・訪問リハビリ『わかば』視察



藤枝総合病院は平成7年に移転新築された。病床数564床、職員1,145人、1日平均の入院469人、通院1027人。29年4月から救命救急センターに指定され、志太橋原圏の拠点となる。



『わかば』は、平成21年にみなし訪問看護として開設「生涯我が家で過ごす幸せを、訪問看護がサポート」する。当院の医師11人が、在宅療養を希望し、外来通院が困難な患者を定期的に訪問診療する。月50件、訪問リハビリもある。

落合慎悟事務所

〒426-0031 藤枝市築地838
TEL 054-645-8100
FAX 054-645-8111
メール s.o@thn.ne.jp



http://www.ochiai-shingo.jp



島田市『茶の都ミュージアム』3月24日オープン



お茶の産業・歴史・文化を紹介展示、茶摘み・手もみ体験や、五感で感じる講座を充実、子どもから大人まで楽しくお茶について学べる機会を提供。

日本の労働生産性2000年までは、主要29か国中1位だった。2015年14位に転落!!

労働生産性とは、労働者1人あたりがどれだけ効率的に働いたかを示す数値で、日本の製造業の国際競争力は低下している。日本(9万5063ドル)の水準は米国(13万9686ドル)の7割にとどまる。ドル換算のため円安の影響もあるが、技術革新で後れた。グローバル企業が多いスイスや風力発電や補聴器などニッチな領域で高い技術力のデンマークは、近年労働生産性が急上昇した。政府は18年度から革新的な技術に投資した企業に減税などの優遇策を打ち出している。

水素価格2050年に1/5に下げ、ガソリンや天然ガスと同程度のコストで水素発電普及!!

政府は、エネルギー源としての水素の普及に向けた水素基本戦略を決定。水素は革新によってエネルギー安全保障と温暖化問題を解決する切り札となる。燃料電池車(FCEV)や水素発電の普及促進で温暖化ガス削減を目指す。FCEVは2020年までに4万台、30年までに80万台を目標。水素ステーション整備は2025年までに全国320箇所に設置する計画。水素技術を協力推進!!

所有者不明土地解消に向け相続登記義務化など不動産登記制度見直し!!政府早急に検討!!

相続登記がされない持主不明の土地が、410万ha(九州は367万ha)もあり問題となっている。相続登記に法的な義務がなく、司法書士に頼むと登録免許税と報酬が掛るため、放置してしまう相続人が多い。故人の土地を引継ぐには「すべての法定相続人」署名の「遺産分割協議書」が必要で、年月が経てば法定相続人はどんどん増える。何代か世代が変わると所有者不明土地となる。自治体調査で「所有者不明土地」を把握していない自治体は約8割。「固定資産税の徴収ができない、道路など整備が進まない」等の支障があった。今年の通常国会で法案を提出し、「新たに利用権を設定して公益性の高い事業に活用できる制度」を創設する。

総務省5年毎「住宅・土地統計調査」今年実施!!高齢化で空家は増加、放置状態空家は深刻!!

2013年調査結果!!静岡県空家27万900戸、空き家率16.3%!!放置状態の空家は83,300戸!!
2016年の県内の高齢者のみの世帯数は36.5万世帯、総世帯に占める割合は23.6%であり、一人暮らしの高齢者は19.3万世帯。一人暮らしの高齢者が亡くなれば、その持ち家は無人化し、空家となる可能性が高い。高齢者の女性が夫と死別した場合でも子供と同居したり福祉施設に同居するケースが多く、入居が進まず、ゴーストタウン化する地域の増加が懸念される。藤枝市の2013年の総住宅数は56,180戸で、人口11%・世帯数6.9%増加した。その内、空家は5,720戸で、5年間の増減率は34.6%と大幅に増加した。更に、放置状態の空家が2,590戸もあり、増減率68.2%と急激に増加している。2015年に「空き家対策特別措置法」が施行され、藤枝市ははじめ多くの自治体が「空き家バンク」を開業、空き家情報の積極的な情報提供を図っている。藤枝市は29年4月から「空き家対策室」を創設している。県内多くの市では「空き家の適正管理に関する条例」を制定し、悪影響を及ぼす空家を「特定空き家」として、行政が所有者に適正な対策を指導し、必要な措置を講じられない場合、所有者に代わり、自治体が強制撤去する権限を盛り込んでいる。

お陰様で、昨年11月に全国議長会長から県議として10年経過し、地方自治功労表彰を受けました。初心忘れず、県議としての活動や静岡県や志太地域の状況を分かり易くお知らせするとともに、静岡県発展のため、県民の皆様からのご意見やご要望に応えてまいります。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

12月県議会 知事報告



平成30年度当初予算編成 一般財源総額が同程度 社会保障経費などは増加、厳しい財政環境下、事業の重点化・効率化など徹底した歳出の見直しで、健全財政の枠組みを堅持する。

地震・津波対策………12月3日「地域防災の日」は、津波からの避難、安否確認、火災の初期消火、倒壊した家屋からの救出救助、孤立予想地域におけるヘリコプター誘導など実践的な訓練を行う。
次期総合計画の策定………若い世代の転出超過や、産業界を支える人材不足など、課題を克服し、誰もが努力をすれば、人生の夢を実現して、幸せを実感して暮らすことのできる地域づくりを進める。
産業成長戦略の推進………企業立地件数が全国第一位となった。次世代産業の創出や、農林水産業の競争力の強化、生産性向上を担う創造的な産業人材の確保・育成などに取り組み、「人」と「富」の創出を図っている。
ラグビーワールドカップ2019………エコパスタジアムでは、日本代表とアイルランド代表との一戦を初め、4試合が開催される。国内外から、多くの方々が訪れ、世界最高峰のラグビーを体感とともに、交流が深まることを、期待する。
東京2020オリンピック・パラリンピック………選手村ビレッジプラザの県産材活用は、事業協力者として、静岡県を初め、静岡市、浜松市、小山町が内定。県産材の認知度を高め、森林認証材の供給力を一層強化し、国内外に販路を拡大する。
富士山世界遺産センター………今月23日、開館する。元文部科学大臣の遠山館長のもと、富士山の普遍的な価値の次世代への継承や、情報発信、交流機会の創出、総合的な調査研究などに取り組む、世界に誇るセンターを目指す。
ふじのくに茶の都ミュージアム………3月24日開館に向け、建物や展示の改修、県産材を活用し、景観に配慮した「吹き寄せ壁」の設置など整備を進める。東洋一のお茶の博物館を目指し、お茶の魅力、国内外に幅広く発信していく。
富士山静岡空港………国内線搭乗者数は、18月連続で前年を上回り、国際線もソウル線のインバウンド需要が好調で、中国路線の搭乗者数の増加などにより、9月以降、各路線とも前年を上回り、堅調に推移している。
旅客ターミナルビルの増築・改修………東側増築部分、入国エリアが10月に完成、供用開始した。歩道にルーフを設置し、路線の拡充や利便性の一層の向上、空港の価値を高め、国内外に選ばれる空港として、積極的に取組む。
国民健康保険の制度改革………国民健康保険は、来年度から、県と市町が共同で運営を担うなど、大きな制度改革が行われる。県民が、安心して質の高い医療を受けられるよう、適正な運営体制の構築に努める。

12月議会 建設委員会報告



建設産業担い手確保・育成対策支援事業………26年に担い手確保・育成の取組が、建設業の責務として定められた。県は産学官が連携して建設産業への理解促進を図り、建設業者団体の担い手確保・育成の取組を支援するし、女性の活躍やICT活用推進をPRする。
建設現場における生産性向上の取組………国は生産性の取組を「i-Construction」と名付け推進を図る。県は「施行時期の標準化」とともに「ICTの全面的な活用」を推進し、新技術・新工法の活用をより推進するため、オープンイノベーション手法を用いた取り組みを図る。
ふじのくに「みちづくり」………10年間の道路ビジョンと5年間の道路重点計画「ふじのくに「みちづくり」」を25年に策定し、施策を進めている。最終年度の今年度は、次期総合計画の策定状況を踏まえ、改定を進める。
道路施設の維持管理の取組………高度成長期に集中的に建設された橋やトンネル等、道路施設の急速な老朽化に備え、「事後保全管理」から、損傷の推移を適切に予測し計画的な補修を行う「予防保全管理」への転換を進め財政負担の標準化を図る。
土砂災害対策の推進………静岡県は土砂災害が年平均50件発生する。「土砂災害による死者数0人」を目標にハード対策とソフト対策が一体となった総合的な土砂災害対策を進める。市町への支援は避難計画、ハザードマップ、避難判断マニュアル等の作成支援。
交通基盤部事前復興行動計画………東日本大震災直後から、復興支援活動として、延べ137人の職員を岩手県へ派遣し、87件の状況報告や改善提案がなされた。知見を活かし今後の大規模災害による被害を最小限に食い止め、早期の復興を可能とする体制を構築する。
御前崎港の振興………コンテナ定期航路等の維持・拡大を図るため、インセンティブを導入し、入港料、岸壁使用料、コンテナクレーン使用料の減免をしている。29~31年度は新規航路対象に入港料・岸壁使用料を6か月間全額免除した。
焼津漁港の振興………29年度取組は焼津南防波堤の耐震・耐津波改良工事、水門等による水産業の減災に関する検討、焼津外港津波緊急退避施設の発注、漁港管理事務所を水産技術研究所との合築整備で、今年度末移転予定。
農業の競争力を強化する基盤整備の推進………農地中間管理事業の重点地区を設定し、29年度は32地区として、集積集約化を促進する。



「髭の隊長」佐藤外務副大臣



福井駅では恐竜がお出迎え



突然、雪が降り始めた視察
高知県橋原町のジビエカー